

# 紺野 / 番場 に栄冠

木村佳司



全日本大会を制した紺野俊介と番場洋子

2005 年度を締めくくったのは、紺野俊介と番場洋子だった。

2006年3月26日 栃木県矢板市 塩谷町 第32回全日本大会

## 紺野・スピードで制す

今年も全日本大会男子は本命不在の状況だった。誰が勝ってもおかしくない。ただ言えるのはテレインの性質上スピードと持久力が無いと上位で戦うことはできないということだ。

男子選手権 M21E - 11300m 545m		
1 紺野俊介	横浜 OLC	1:17:52
2 高橋善徳	みちの会	1:18:18
3 小泉成行	ときわ走林会	1:19:51
4 松澤俊行	三河 OLC	1:20:55
5 山口大助	ES 関東 C	1:20:56
6 坂本貴史		1:21:54

そんな混戦の中、紺野俊介が優勝を手にした。紺野のスピードが他を圧倒したかたちだ。紺野はミドル競技で最も良いパフォーマンスを見せてくれた選手。2005年の愛知世界選手権でもミドル種目で予選突破を果たした実績を持つ。

今回のウイニングタイムは77分。予

定されていた90分より、結果的に短いものとなっていた。これがもう少し長ければ結果はまた変わっていたかもしれない。

## 圧勝・番場

圧勝だった。このテレインとコースでは番場の速さは群を抜いていた。番場に対抗できるのは前回の全日本優勝者の宮内くらいだったろう。

しかし宮内は今回男子クラスのM21Aに挑戦し、来年度の男子選手権クラスへの参加権に挑戦していた。

宮内が参加していない女子選手権クラスでは2位以下は競り合いになっているが、優勝はダントツで番場がかさっていった。

番場や宮内の目は日本ではなく、もはや世界に向いている。番場もこの全日本大会をもって女子クラスへの出場を抑え、選考会以外では男子クラスで武者修行を行なうようだ。この夏、デンマーク行われる世界選手権での最高のパフォーマンスを目指して。

女子選手権 W21E - 8300m 380m		
1 番場洋子	HORIBA	1:11:41
2 元木友子	Team 白樺	1:17:10
3 田島利佳	みちの会	1:18:29
4 加納尚子	三重県庁 OLC	1:19:05
5 朴峠周子	日本女子大	1:22:29
6 澤地未来	OLC レオ	1:24:23

## 総力を上げた運営

田んぼの広がる日本的な丘陵地帯。きれいに整備された里山は、通行可能度バツグン。きれいに調査された地図は、初心者には適度な難易度を、上級者にはスピードレースを提供してくれた。

今回の全日本大会の素晴らしい競技環境は関東地区のオリエンテーリング組織の総力を上げて準備された。

実行委員会は関東ブロックの各都道府県協会からメンバーを集め、組織された。いつもはテレインを走っている顔が今回は運営の随所に見られた。オリエンテーリング大会参加の経験が豊富なメンバーだけに、大会運営のツボを心得ており、非常にスムーズな進行だ。

地図は栃木県の協力のもと日本学連が提供した。日本学連は矢板地区でインカレを定期的で開催しており、この地区の地図資産を整備する意味もあった。

「新しい日本のオリエンテーリング」がキャッチフレーズの全日本大会。皆で作上げる全日本大会の姿がここにあった。



通行可能度バツグンの里山

満足して帰ったはずの全日本大会。残念な事故があった事を知ったのは自宅に帰ってからだった。

(木村佳司)